S.Steel
SPECIAL STEEL
March/2005
Vol. 26

すてぃ～る

目 次

特集　平成17年「賀詞交換会」

- 平成17年「賀詞交換会」開催 …… 1
- 新支部長訪問
  - ・宮内 保　北関東支部長 …… 7
  - ・原 博康　静岡支部長 …… 8
- 突然おじゃま　塚越 政美　塚越特殊鋼(株)代表取締役 …… 9
- 私の愉しみ　木村 義男　石原鋼鉄(株)東北営業所所長 …… 11
- 4月1日は「はがねの日」 …… 13
- 理事会・委員会報告 …… 14
- 事務局だより・編集後記 …… 裏表紙

社団法人全日本特殊鋼流通協会
〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号（鉄鋼会館）
TEL.03-3669-2633・2777　FAX.03-3669-0395
ホームページ　http://www.zentokkyo.or.jp
E-mail　zentoku3@ba2.so-net.ne.jp

（社）全日本特殊鋼流通協会 平成17年『賀詞交換会』開催

メーカー、ユーザー双方の調整に努め、需要に応えていく

全特協では1月27日(木)、東京・グランドヒル市ヶ谷で、約450名の参加を得て、平成17年の賀詞交換会を開催しました。

冒頭、三上聡彦会長は「昨年の特殊鋼業界は、国内はもとより中国を始めとする世界的な需要に支えられ、特殊鋼熱間圧延鋼材生産高は2000万トンに迫る勢いだった。また、流通業界においても、収益構造の改革から業績回復をみるに至り『特殊鋼復権』を感じさせる年だった。本年も、引き続き堅調な需要が見込まれるが、諸原料の高騰から、値上げやエキストラ体系の改定、商材の確保に苦慮する可能性など予断を許さないのも事実。流通業界としても、メーカー、ユーザー双方の状況を的確にとらえ調整していく機能がますます重要となる年」と挨拶しました。

引き続き、ご来賓を代表して糟谷敏秀経済産業省鉄鋼課長からご祝辞を頂戴し、近藤俊雄特殊鋼倶楽部副会長のご発声で乾杯、新年の門出にふさわしい、盛大な雰囲気のなかでの賀詞交換会となりました。

ご来賓祝辞

ユーザー・サプライヤー間のコミュニケーションを密に難局を乗り越えてほしい

経済産業省製造産業局鉄鋼課長
糟谷 敏秀　様

新年あけましておめでとうございます。

3年連続で生産量があがり、好況に沸くこの業界ですが、それにともなった難しさも発生しているのが事実です。その代表例が、『鋼材が十分に手に入らない』という、原料不足そして原料高騰の問題です。あるところで耳にした話では、「ある鋼材を調達できなくて、それまで継続していた仕事を失くしてしまった」という、好況下における不思議で無残な事例です。生産と流通の仲立ちをされているみなさまにとっては、これまでにない難しい年かと思いますが、このような状況下での動きには、ユーザーとサプライヤーとの間のコミュニケーションが、非常に大事なものになってくると思われます。これまでにない事情の違いというものを、いかに的確に迅速にお互い理解しあえるか。情報の正しい伝達というものが、これからの非常に難しい商環境でますます重要になってくると思われるのです。不満を恨みに変えずに、よりよくスムーズな業界と商環境づくりに努める。目先のことばかりではなく、中期的にお互いの関係を睨みながらコミュニケーションを形成していくという意味でも、全特協でのみなさまの活動が、大きな成果と前進のエネルギーになることを期待しながら、今年のさらなる飛躍をお祈り申しあげます。

全特協会長「年頭のあいさつ」

貴重な材料を有効かつ適切に活用し、需要に対応する

（社）全日本特殊鋼流通協会
三上 聰彦　会長

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

会員、賛助会員のみなさま、また、ご来賓として公務大変お忙しいなか経済産業省鉄鋼課長糟谷様はじめ鉄鋼課のみなさま、社団法人特殊鋼倶楽部会長髙山様、業界団体のみなさま、報道関係のみなさま、多数のご臨席を賜り大変賑やかに平成17年賀詞交換会をここに開催することができ、厚く御礼申し上げます。

昨年の特殊鋼業界は、諸原料の高騰にメーカー各社は苦慮しながらも中国をはじめ世界的な需要の増加、国内需要ではKDセットを含む自動車、造船、建設機械、更に工作機械の高生産など旺盛な需要に支えられ、特殊鋼熱間圧延鋼材生産高は2000万トンに迫る勢いで、特殊鋼メーカーにおかれましては、利益も大幅に改善され「特殊鋼復権の始まり」の年となりました。また、流通におきましても、収益構造の改革に努め、メーカーの度重なる値上げや量の制限を克服しつつ、なんとか業績回復をみるに至りました。お祝い事といたしましては、大阪支部の扇鋼材斉賀社長の大阪府知事表彰、東京支部のUEX小田社長が旭日小授章の栄に浴されました。関係のみなさまはもとより、われわれ会員としても大変喜ばしいことと存じます。

さて、引き続き本年も底堅い需要が見込まれておりますが、鉄鉱石、原料炭の大幅な上昇、その動向よっては鉄スクラップの再上昇、諸原料の高騰と不透明な状況にあり、流通に取りましてはメーカーからの更なる値上げ、エキストラ体系の改定、また鋼種、寸法によっては物の確保にも苦慮するという、これまでに経験したことがない厳しい環境にあります。われわれ特殊鋼流通に携わる者といたしましては、この価格、数量の問題をお客さまに誠意を持ち、謙虚に理解していただく努力をするとともに、メーカー、ユーザー双方の状況を的確に捉え伝達、調整していく機能が今一番求められるものであります。貴重な材料を有効かつ適切に活用し、凌いでいくことが責務であろうと考えております。

本年は、社団法人全日本特殊鋼流通協会にとりまして中期計画の仕上げの年となります。各委員会、支部で精力的に事業展開をして参ります。また、4月1日を「はがねの日」と制定し、今年から各支部で4月中に記念事業をしていただくようお願いをしております。そのきっかけ作りとして、広報委員会で全特協のロゴ入りのTシャツのデザインコンペを実施いたしましたところ、100点の応募がございました。そのなかから審査の結果、過日グランプリが決定し、大阪支部の田島スチール・中道真一さんのデザインが選ばれました。そのデザインをTシャツにプリントし、サンプルとして会員に配布させていただきます。

全特協では今後とも積極的に事業を進めて参る所存でございます。どうか本年も引き続き当協会にご支援、ご協力をお願い申しあげます。

各社のご隆盛とご参会のみなさま方のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申しあげまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

（社）全日本特殊鋼流通協会　賀詞交換会

平成16年1月23日（金）　グランドヒル市ヶ谷

乾杯あいさつ

（社）特殊鋼倶楽部副会長　近藤 俊雄 様

昨年後半より、世間一般の景気は調整局面、踊り場にあるといわれております。私個人も、あきらかに変局点を迎えていると思っておりますが、私ども特殊鋼の主要なお客さまであります日本の各産業は、世界的な経済活動を大変加速をさせておりまして、特殊鋼の需要についてはこの先しばらくは、相当強い基調で続くものと思っております。昨年来より、『鉄の復権』などと声高に叫ばれておりますが、私どもとしては、大変大きな課題を突き付けられていると思ったほうがいいかと思います。「夢醒めた後、あれは宴であった」などというふうに思わないよう、本当の復権を遂げるために、今年からはいろんな課題に挑戦していかなければなりません。原料高イコール値上げということではなく、これからは、業界全体として日本の産業ためにキチンと協調と責任を果たしていけるよう、そのために私どもとしては、どういう需給バランスの中で、どういう管理でどういったコストで生産するかを、しっかりと見極めながら、対応していきたいと思っております。メーカーとしても流通としても業界全体として、今年一年、困難な課題に取り組む覚悟を誓い合いながら乾杯といたしましょう。

中締めあいさつ

（社）全日本特殊鋼流通協会・東京支部長　竹内 誠二 様

昨年は、中国特需等さまざまな後押しを受けて、特殊鋼生産が、夢の2000万トンに届こうかという、まさに『特殊鋼復権』を印象付ける年でした。しかし、世界経済の非常な拡大から、材料不足、コストアップ、仕入れ単価の上昇など、非常に厳しく難しい問題が噴出しております。こうした難局の解決には、やはり特殊鋼を作るほうと売るほうとの一体と、協調、そしてこうした現状をユーザーさんに理解していただき、今日集まっていただいたみなさまの適切な利潤が確保できるように粘り強く働きかけていく必要があるかと思います。特殊鋼業界全体はもとより、『ハガネ屋復権の年』とすべく、今年もがんばっていきましょう。

各支部でも賀詞交換会、新たな出発を誓う

東京支部

平成17年賀詞交換会
開催日時：平成17年1月27日(木)18:00〜20:00
開催場所：グランドヒル市ヶ谷
参加者数：450名
トピックス：協会との合同開催

▲協会の賀詞交換会で中締めの挨拶をする竹内支部長

大阪支部

特殊鋼三団体共催　新年賀詞交換会
開催日時：平成17年1月5日(水)11：30〜13：30
開催場所：リーガロイヤルホテル　光琳の間
参加者数：777名(全特協大阪支部　235名)
トピックス：(社)特殊鋼倶楽部大阪支部と大阪ステンレス流通協会との合同開催。
近畿経済産業局産業部製造産業課・課長補佐・南竹二郎様および、大阪府商工労働部商工振興室・課長補佐・道旗 佳久様が出席された。
昨年末からの品不足と価格急騰という特殊鋼流通業界を震撼させるような事態の中での賀詞交換会であったが､例年になく参加者も多く盛会であった。

▲樋口支部長あいさつ

名古屋支部

特殊鋼三団体共催　新年賀詞交換会
開催日時：平成17年1月7日(金)18：00〜20：00
開催場所：ヒルトン名古屋
参加者数：380名
トピックス：(社)特殊鋼倶楽部名古屋支部と名古屋ステンレス流通協会との合同開催。
今年の当番幹事である(社)全特協・田島名古屋支部長があいさつに立った。
来賓の中部経済産業局・杉山課長補佐のあいさつのあと、(社)特殊鋼倶楽部の久保名古屋支部長の乾杯で、なごやかなうちに賀詞交換が始まった。
最後は名古屋ステンレス流通協会の林理事長の音頭で盛会のうちに中締めとなった。

▲田島支部長あいさつ

東北支部

平成17年　新年賀詞交換会
開催日時：平成17年2月18日(金)16:00〜18:00
開催場所：仙台国際ホテル3階「桜の間」
参加人数：44名
トピックス：小林支部長のあいさつで始まり、茂木総務部長にごあいさつを頂き、日立金属(株)工具鋼の渡辺課長様の乾杯で、約2時間の各自なごやかの中にも、厳しい歓談が所狭しと行われ、大同特殊鋼(株)工具鋼第一販売室の佐野室長の中締めで盛大裡のうちに終了しました。

▲小林支部長あいさつ　＜(株)特殊鋼産業新聞社提供＞

▲協会・茂木総務部長あいさつ　＜(株)特殊鋼産業新聞社提供＞

北関東支部

賀詞交換会
開催日時：平成17年2月14日(月)
開催場所：伊香保温泉
参加者数：25名
トピックス：協会事務局から仕幸専務理事が参加し、最近の協会活動について報告した。

▲宮内支部長あいさつ　＜(株)特殊鋼産業新聞社提供＞

▲協会・仕幸専務理事あいさつ　＜(株)特殊鋼産業新聞社提供＞

▲集合写真　＜(株)特殊鋼産業新聞社提供＞

静岡支部

平成17年賀詞交換会
開催日時：平成17年1月27日(木)18：00～20：00
開催場所：静岡グランドホテル中島屋
参加者数：22名
コメント：市場が厳しいおり、和やかに歓談できました。
トピックス：賀詞交換会の前に新春講演会を開催。
講師：寺嶋実朗氏(三井物産㈱戦略研究所長)
演題：ユーラシアダイナミズムとアメリカの疲弊(問われる日本及び日本企業の戦略)
開催場所：しずぎんホール・ユーフォニア
コメント：斬新な所見に感銘を受けました。

九州支部

平成17年賀詞交換会
九州ステンレス流通協会との共催
開催日時：平成17年1月7日(金)16：00～19：00
開催場所：グランドハイアットホテル
参加者数：206名(全特協九州支部　55名)
トピックス：賀詞交換会に先立ち九州支部運営委員会を開催し、平成17年度支部事業計画(案)等に付き審議した。

▲青柳副支部長あいさつ

新・支部長訪問

北関東支部　宮内 保　支部長
［小山鋼材（株）・代表取締役］

地方レベルでも若手の集いを仕掛けたい さらに魅力ある団体として全特協とは

■特殊鋼という商品を体系的に捉えられた全特協の意義

昨年6月より北関東支部長を務める小山鋼材（株）の宮内保社長は、昭和32年7月生まれの47歳。本年をもって、酉年生まれの年男である。

「干支の年を中心として支部長の役を仰せつかったのは、これもよき巡り会わせと感じ光栄。いわば記念の年に、支部運営ひいては協会運営に貢献できるよう努力していきたいと思うので、皆さまのご協力をいただきたい」とのこと。

北関東支部は、これまでも同業者間のまとまりはよい方で、支部行事の参加率も比較的高い方らしい。「会員会社の代表の方にとどまらず、支社・営業所といった出先機関の皆さまのご協力を抜きにして支部運営は語れないのが実情。行事の計画立案や諸調整など、緻密な活動で支部を支えていただいているのは、こうした出先機関の方々。深く感謝するとともに、今後もよろしくお願い申し上げたい」と宮内支部長。

公益法人として衣替えしてから、今年で9年目となる全特協だが、「同業者間の親睦を中心としてきた任意団体の頃から比較すると、『会費に対しての"戻り"が少ない』という会員さんも、まだいらっしゃるのは事実」。しかし、特殊鋼販売技士・販売加工技士の実務講習等を含めた様々な勉強会を通じて、「自分たちが扱っている特殊鋼という商材を、学問的に体系だって学べるという意義は大きかったのではないか」と宮内支部長は全特協のこの9年間を振り返る。

「技能がどのようにビジネスに役立つかは、会社ごとや個々人の立場を鑑みて一概には言えないが、本会の理事会・委員会でも、資格をフォローアップする企画が検討されているので、その動きに合わせた支部運営とともに、地方からも役立つ情報や意見を発信していければ良いと思っている」とのことだ。

■大きく世界が広がった「青年部会」の活動

宮内支部長といえば、支部活動に注力しつづける一方、平成13年に発足し、全特協のなかでニュー・ウェーブ的活動を展開し続ける青年部会に設立当初より参加。翌14年からは、副部会長として中核的な役割を担ってきている。「青年部会の存在とその活動は、協会のみならず、個人としてもエポック的なできごとのひとつ」と宮内支部長は言う。

全特協を構成する多くの企業がそうであるように、「中堅どころのオーナー企業のトップとして行動していると、自分の会社の周辺、および地域を超えた活動はなかなかできないのが現状」だという。そうしたなかで、青年部会に関われたことは「例えば、木村雅昭前部会長をはじめとする、全国各地の魅力的な若手経営者の方々と本音で語り合えたことは、ともすれば閉塞しがちな自分の考え方を大きく広げてくれた貴重な会」だと言う。「大きく外の世界に踏み出し、世界が広がる」。そんな集いだと、青年部会のこれまでの活動を振り返る。

「青年部会の今後の活動方針としては、もっと地方レベルまで広げて落とし込んでいけないかと、堀田靖部会長とも話しが出ている」と宮内支部長。つまり、地方の各企業のいまだ経営の矢面に出ていない今後の経営者候補や、営業や生産の最前線で企業を引っ張っている中堅社員をも巻き込んだ活動だ。「いずれ立場が重くなれば、さまざまな制約で活動しにくくなる方もいらっしゃるでしょう」。宮内氏いわく、「情報の吸収や、本音をぶつけ合ってともに学びあうという青年部会の活動趣旨からすれば、表に出てくるのは早ければ早いほどいいのでは」と、部会活動への幅広い参加を呼びかける。

■次の世代の率先的立場で、協会の在り方を考える

そうした、青年部会の活動を含めて、「支部長を務めさせていただいているうちに、何かできることがあれば」と考える宮内支部長。もっとも、会員各社が広域に拡散している地方支部では、行事等の集合でも制約がつきまとうのは頭の痛いところだが、今後、支部長としてだけの活動に留まらず、例えば、進む世代交代で、業界内にあがってくるさらなる若手の人材の率先的な立場としても、全特協という業界団体の存在の意義と社会貢献の方法を考え、発信しつづけていかなければならないと思う宮内支部長である。

酉年生まれの特徴は諸説あるがそのなかのひとつに、「交際範囲が広く、情報に敏感で、時代を先取りする能力に優れている」とある。「自分がそれに合致しているかどうかはさておき、そうした傾向があるのだということを励みにして、酉年ならではの“夜明けを呼び覚ます”ような行動を目指したいもの」と抱負を語る宮内支部長である。

静岡支部　原 博康　支部長
［東泉鋼機（株）・取締役社長］

全国規模での有益な情報等
全特協・本部よりのご指導に期待

■経済・文化両面に広範な支部の取りまとめに苦労する

昨年6月の支部総会で、1期2年の任期予定で静岡支部長に就任した東泉鋼機社長の原博康氏は、昭和29年4月沼津市生まれの50歳。山梨大学工学部機械学科卒業後、愛知製鋼に入社。約2年間の勤務の後、初代和義社長の経営する東泉鋼機に入社。平成8年に2代目社長に就任している。東泉鋼機そのものは、静岡県東部の金型メーカーをメインユーザーに、工具鋼の販売加工を主力とする。特に、フレームハード鋼では、県下随一の取扱量を誇る。

長きにわたる特殊鋼業界でのキャリア、そして地元静岡に根ざした業界活動のノウハウをもって、支部長に就任したわけだが、「支部長の器ではないと実感している」とはご本人の弁。「静岡県は、東部・中部・西部と県民性や気質も異なり、また商圏も東京圏から名古屋圏まで広範にまたがり、文化圏、経済圏とも複雑に絡み合う現状がある」と原支部長。参加企業数は23社だが、支部会員15社、賛助会員3社で正会員は5社に過ぎない。「支部として、なかなかまとまった活動が取れないところが悩みどころで、他支部との比較でもお恥ずかしい限りです」と苦笑される。

■市況および加工に関する勉強会が好評

活動に弾みをつけ、活気ある支部をつくろうという試みには、原支部長のみならず、歴代支部長も模索を続けてきた静岡支部だが、最近では、1月11日に18名の参加者を得て、『工具鋼市場状況懇談会』を開催。また、1月27日の賀詞交換会と同時に、18名の参加者を得て『新春講演会』を開催。「2月25日にはブケ東海静岡にて、切断加工原価に関する勉強会を開催した。これは、他支部で好評だった勉強会を本部より勧められて開催したもの。この勉強会を通して、切断加工の重要性と付加価値を再認識し、さらに切断加工の原価構成を学習し、原価計算の分析に役立つと参加者からの評判も上々だった」と原支部長。限られた会員と貴重な機会をうまく捉えて、業界動向の交換会や各種の勉強会などをコンスタントに執り行っている。「支部長としては、少しでも地元会員相互のコミュニケーションをつなぐ活動を行なっていきたいと思っている。地方での活動に終始することが多いものですから、どうしても所見が狭くなるのが地方支部の悩みどころ。さまざまな情報やノウハウに飢えておりますから、本部、さらに他支部からの有益な情報、ご指導をお願いしたい」と原支部長は語る。

■サッカー審判員の資格ももつ活動家

日々の業務の合間の趣味は、『サッカー』という原支部長。しかも、4級審判員の資格を持つという本格派で、地元少年サッカーチームの指導員を引き受けている。「ご存知のように静岡は、"サッカーどころ"。県下、特に中央部には多くの強豪がひしめいている。なかなか地元のチームが勝ち上がるのは大変。それでも、ひとつでも上での勝ちを目指して、少年達と体を動かすことは貴重なリフレッシュになる」という。

サッカーというアグレッシブな趣味のほかに、大のパソコンマニアという一面も持つ。「パソコンは、ウインドウズ以前のPC8801やMZK2という、パソコン創世期の頃のマシンからの付き合いで、当時はシステムもハードも発展途上で、自分で組み立ててメンテナンスする楽しみがあった」という。「現在でも実地に使用しているオールドパソコンもあるが、自宅の一室は歴代のパソコンが眠る場所に。良くいえば『パソコン展示室』、悪くいえば『パソコンの墓場』です」と笑う原支部長。

好きな言葉は『日々に新たに』。—惰性に流され空しく時間を費やすことなく、日々新たに気持ちを引き締め物事に取り組みたい—。そんな活動的な原支部長と静岡支部の今後の活躍が期待される。

静岡支部のある東泉鋼機（株）社屋全景

突然おじゃま

塚越特殊鋼(株)代表取締役／塚越政美

東北自動車道・加須インターそばという、日々の営業活動には絶好の立地にある塚越特殊鋼。昭和62年に東京の藤田商事から現社長の塚越政美氏が独立した、埼玉県から北関東を中心に営業展開する特殊鋼専門商社だ。長く続いた不況から一転しての好況、そして原料高による鋼材の値上げなど波乱含みで予断を許さない特殊鋼業界。そんななかで塚越社長が目指しているのは、"オリジナリティがあり、顧客の信頼に耐える会社"。お話しを伺ってみた。

手間のかかるビジネスで独自色を出す

■構造用鋼、量産品を中心に営業展開

昭和21年8月群馬県生まれの塚越政美氏は、昭和42年に全特協の会員企業でもある東京の藤田商事に入社。以来、一貫して特殊鋼販売の営業畑を歩み、昭和46年の同社・埼玉営業所開設に伴い同所に就任する。埼玉から群馬・栃木といった北関東を中心に営業展開し、昭和62年には藤田商事より“のれん分け”の形で独立。塚越特殊鋼を創業することになった。

「独立した時期というのは、バブル到来前の不況期。『なんでこんな時期に独立を』と回りからよく言われたもの」とは塚越社長。まもなくやってきたバブル期にも、「なにしろ会社を始めたばかりで所帯は小さいし、設備の拡充など出物は多い。同世代の多くが味わった、バブルの熱狂というものには、ついに無縁のまま」と笑う。「しかし、その間本業専念で、着実に業績を伸ばしてこれたのだから、ある意味幸いとしなければ」とこの間を振り返る。

塚越特殊鋼の主な取り扱い鋼種は、機械関連の構造用鋼である。これが全体の9割を占め、その他でステンレス鋼を扱う。「顧客の多くは、自動車関連を中心とした2次下請け、孫下請けといったところ。量産品の加工販売を中心としている」(塚越社長)。量産品の受注が増えてきたのは、ここ数年のことで、平成14年にはCM‐75CNC超硬丸鋸盤を、平成15年にはCM100AN‐CNC超硬丸鋸盤といった量産型の加工機を相次いで導入した。「量産品は利幅は薄いながらも、長く定時的に顧客とつながる商売として重要視している」と塚越社長。顧客との関係のなかで築いていく信頼性が、会社の得がたい財産になると考えるからだ。

■特色ある特殊鋼販売会社を目指して

ここ数年の、価格競争激化といった期間を経験したうえで、塚越社長は「特色のある会社づくり」を目指し、同業他社との差別化を図るよう努めてきた。量産品の加工販売に注力して、顧客との固い絆を築こうとしたのも、その独自性のひとつともいえるが、メーカーとの長年の緊密な関係を活かして、いわゆる「開発鋼種」を積極的にユーザーに提案してきたのも、長きにわたって特殊鋼流通業界に関わってきた塚越社長のオリジナリティ溢れる営業スタンスだ。

「メーカーの新製品をいち早く販売する。そうした、開発鋼種を率先して手がけることで、競争相手のいないビジネスが展開できる」と塚越社長。「そのためには、ユーザーに対して開発鋼種の新しい用途を提案しながら、自らの商売を育てるとともにユーザーの技術、商売も育てていくような営業活動が必要になる」という。開発鋼種がめでたくユーザーに採用されるようになれば、競争相手のいない独自ビジネスになるのはもちろん、新たな製品を提案してくれ技術ビジネスに新たな応用力を持たせてくれたと、ユーザーからの感謝と信頼も絶大なものになるのはいうまでもない。「今すぐ商いになる営業ももちろん大事ですが、目先のことだけに捉われず、顧客

本来のためになる提案ビジネスを仕掛けていってこそ、独自性という競争力の確保にもなり、独自性ゆえの顧客満足と信頼も勝ち取れる。こうした営業スタイルで、特色のある会社を創造したい」と塚越社長。

社内の意識改革にも積極的に取り組むことで社員一丸となった価値を創造しようとした。「昨年、ISO9001の認証をとったことで、製品管理に対する社内意識が大きく向上した」と塚越社長。「この規模の会社で、費用と手間隙をかけて認証を得ることは非常に大変でしたが、その間の社内の生産管理体制の見直しや整備を通して、社員全般の意識が大きく向上したのは、やはり大きなメリットだった」と塚越社長は振り返る。「以前なら、少々の甘さを許容していたことでも、より厳格に顧客および社内に対する責任の大きさの痛感、さらに社会貢献といった大きな意義まで浸透して仕事に取り組めるようになったのでは」という。

こうした、社内の整備・改革の実務担当者として先頭を切って業務にあたったのが、現在29歳になる塚越社長のご子息。「いまだ、私のもとで修行中の身ですが、社内の切り回しでは随分成長してくれたと評価している。今後は、経営陣の一角として、外に顔を向けさせた活動を与えていかなければと思っているところ」。社内の生産管理等の整備の完了とともに、ご子息の成長を見極められたという面も、大きな収穫だったようだ。

■次の世代の魅力ある業界づくりに期待

旧埼玉支部に属していた塚越特殊鋼は、法人化を機に多くが脱会した同支部にあって、全特協にふみとどまった数少ない会員会社でもある。

「法人化によって、理念の違いなどから脱けられた会員さんも多かったが、私にとっては次の世代のことも考えて、メリットが大きいと判断して継続を決めた」という。次の世代というのは、時期経営者であるご子息のことを主に指す。「私個人は、長い業界経験でメーカー、ユーザー、そして同業者の皆さまとの情報や意見交換はできる。しかし、次の世代の者になると、そうした機会はまれで全特協という外に開かれた窓とつながりを持っておくことが必要と感じた」と塚越社長。「また、これからの時代はわれわれのような中小企業でも、さまざまな社会貢献活動など、一流企業が取り組んでいるような意識にも明敏になっていかなければいけない。そうした面からも、業界としてまとまりのある全特協に属していることは、特にこれからの若い世代には必要なのではないか」という。

「さまざまな勉強会や見学会を通じて、会員企業のレベルアップを図りながら、同業の経営者が集うことで有益な情報交換も図る。そして、魅力ある業界をつくっていくための全特協の活動に今後も期待する」と塚越社長は語る。

■庭の木との語らい

「プライベートな時間は、これといって無趣味」と断りながら、塚越社長は自宅の庭木の新芽たちについて頬をほころばせながら語ってくれた。「休日の午前中は、だいたいハサミをもって庭に立つ。そろそろものによっては。硬い新芽が芽生え始めていますが、今ならチャボヒバ、モチノキ、モッコク、さつきといったところに手をかけている」と塚越社長。

「草木といえども生き物だと実感する。冬の間にきちんと手をかけ言葉をかけてやったものは、春5月の芽吹きのときの勢いが、茂りの色合いまで違ってくる」と、その時がさぞかし待ち遠しそうに庭の木のことを語ってくれた。

大事に手をかけ温め続けていくのは、ビジネスも庭の木も後継者も同じことであろう。この先々くるであろういくつもの春に、色鮮やかな若葉が芽吹きますように。春の訪れが待ち遠しい塚越社長である。

私の愉しみ

石原鋼鉄(株)東北営業所・所長／木村義男

野へ山へ海へ。
みちのくの山海を五体で楽しむ。

■海近く、山迫る仙台での楽しみ

「工具鋼のデパート」として、関東、東海、中部、東北と全国規模で高級工具工の加工・販売を手がける石原鋼鉄(株)。その東北六県全域の営業展開の要として、東北営業所をマネジメントするのが、木村義男氏である。

木村所長は、昭和27年11月日立市生まれの52歳。亜細亜大学卒業後、いくつかの転職を繰り返したが、基本的には特殊鋼商社の営業畑を一筋に歩んできた。

現在、原料高を背景とした鋼材の価格高騰で、ユーザーへの値上げ要請の外回りで実に多忙という。しかも、各ユーザーは広大な東北六県に点在する。取材に訪れた当日も、「実はここ一週間自宅に戻っていない」と苦笑い。「取材を受けるために営業所に戻ってきたのも数日ぶり。昨今の価格問題がなければ、そう客先に出向くこともなくシステマチックに発注、納品等のビジネスは進むが、値上げともなればそうもいかない」。背景説明と理解のために、全客先をまわってコミュニケーションを取っているところだという。そのような状況のなか、広大な東北の山河を駆け回る木村所長の社用車の年間走行距離は実に3万キロにもおよぶ。「順調にビジネスが回っているときは、たいした仕事もないものだが、こうした一種の非常時にこそ駆け回らなければいけないのが営業職の勤め」と木村所長はいう。

そんな木村所長の休日の過ごしかたは、野や山、そして海を駆けることと、なかなかアグレッシブ。この年代のビジネスマンに必須ともいえるゴルフはやらない。「趣味としては、個人で長く続けられるものではないので」との理由だそうだ。

ご存知のように仙台は、黒潮と親潮が交差する大海に近く、郊外ほど近くにこの時期なら冠雪をいただく奥羽山脈も迫る絶好のアウトドア・シーンに恵まれる。そんな自然環境を友に、木村所長が繰り広げる余暇の内容は実に充実した羨ましいもの。仙台港から奥松島周辺まで船を乗り出しての釣りに始まり、冬のこの時期なら、自宅近くの泉ガ岳周辺でスキーを楽しむ。春、芽吹きの時を迎えれば、山形、秋田といった出羽山脈へも足を伸ばしたハイキングの日々。時には道中、車を利用したオートキャンプで、季節の移ろいをダイレクトに肌に感じる小旅行も織り交ぜるという。「金曜の夕方から車を飛ばして登山口に到る。そこでひとりテントを張って自炊をし、持ってきた酒を飲みながら満天の星を眺める。静かな時間が流れ、日々の垢にまみれた気持ちも癒される」とは木村所長。冬の時期はさすがにこうした活動は休まざるを得ないが、「その分、山も海も一斉に生命が躍動し始める春は、外遊びの人間にとって至上

かつての山岳部の精鋭も、現在は気軽に山を楽しむ。栗駒山(1628m)にて。

さまざまな道具を広げて一夜を過ごすのも楽しいもの「キャンプ道具には手軽な男のオモチャがいっぱい」とか。

の季節であり恋焦がれる季節」と語る。

■山岳部出身、自然体で山河を楽しむ現在

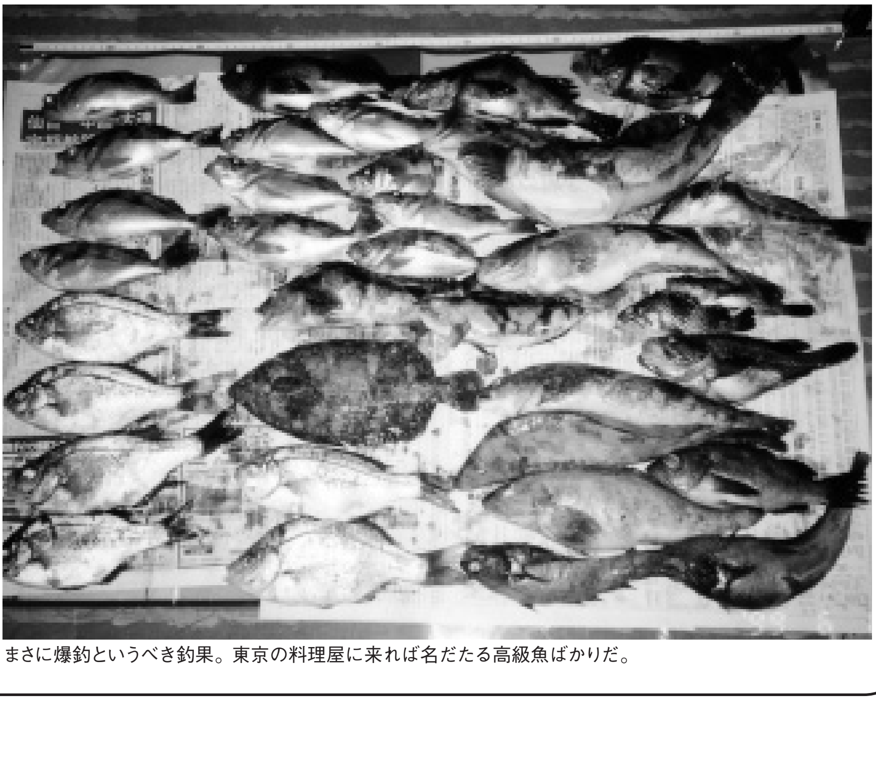
実は木村所長は、亜細亜大時代は山岳部の主将まで勤めた、筋金入りのアウトドアマンともいうべき“山屋”の出身。「スキーと山に興味があって、気がついたらバリバリの体育会系に属していた」(木村所長)。4年間の山岳部時代は、下宿の床を暖める暇もないほど、遠征や合宿を繰り返し、「年間100日以上は山びたりだった」という。谷川岳、穂高岳、剣岳という名だたる国内一級の岩稜から、飯豊山など東北各県の広大な山域までを歩き回った。「在学中はずっと母親は肝を冷やしていたようです。卒業後、就職が決まってから密かに山道具一式を捨てられてしまったほど」と笑う木村所長。現在では、それほど肩肘張らずとも気軽にアウトドアを楽しんでいる素養が実はこの山岳部時代から来ているものだという。

「今では、気が向いたときにふらりと山を訪れるという感じ。季節のいい時期を選んで無理せず、時にはキャンプもかねて山野を楽しむようにしている」。いわば、『休息のための山』と木村所長はいう。「車に自転車を積んで野山を駆けることも。ひとところに熱中するには移り気なところも多いようだ」と自在な楽しみ方である。

山ばかりにこだわらず、海へと出る機会も多い。「海での遊びはもっぱら釣り。防波堤、磯からの陸釣りも多いが、何人か仲間が集えば、乗合船をチャーターして沖に出る」という。風光明媚な松島湾をいく乗合船は東京界隈から較べればずいぶん安いという。「5～6人も集まれば、かなりリーズナブルに楽しめ、漁場としても恵まれているから釣果もそこそこ期待できる」という。大漁の獲物がずらりと並ぶ写真には、50センチを超えるアイナメを筆頭に、20～30センチ級のメバル、ウミタナゴ、カレイ、クロソイなど北の珍味が勢揃いといった感じで羨ましい限り。「こんなに釣れることはまれですが、家族はもとよりご近所へのお土産と、釣った本人はなかなか気分がいいもの」。たっぷりと刺身の取れるアイナメも実に美味かったという。

「場所がら、冬の時期はアウトドアもしばらくお休みというのが泣き所だが、自宅からスキー場が近いので、夕方からナイタースキーに出かけて体を動かしている」と木村所長。目下、次の外遊びとしてターゲットしているのが、スキューバダイビングだとか。「年を取ってものんびりと楽しめそうだし、南国の海の中に潜るなんて、いままでにない新味さでチャレンジの意欲が沸いているところ」と木村所長。「リタイヤした後は、暖かな南の島、そう、ペナン島あたりでダイビングしながら老いを養えるようになればいいと思ってるんだ」と、次なるアウトドアへの興味に目を輝かせる木村所長である。

仙台湾沖合での釣り。思わぬ獲物に出会えるのも楽しみのひとつ。



まさに爆釣というべき釣果。東京の料理屋に来れば名だたる高級魚ばかりだ。

4月1日は「はがねの日」

かねてからの告知の通り、広報委員会において、4月1日を「はがねの日」と制定しました。これは平成6年4月1日に全日本特殊鋼販売組合連合会から全日本特殊鋼流通協会に改組した日を記念したものです。

平成17年4月1日から30日までの間に、流通加工業者の交流・結束を図ることを目的とし、各支部単位でイベントを計画中です。

発表！「はがねの日」制定記念Tシャツ

4月1日を「はがねの日」と制定し、各支部で記念事業をしていただくそのきっかけ作りとして、広報委員会で全特協のロゴ入りのTシャツのデザインコンペを実施しました。最終的に100点もの応募があり、そのなかから、大阪支部の田島スチール・中道真一氏のデザインが選ばれ、記念Tシャツに採用させていただきました。

また、グランプリの他にも優秀賞5点、デザイン賞2点を選出しております。各賞受賞者は下記の通りです。

●グランプリ賞（副賞：5万円の商品券）
大阪支部　田島スチール（株）・中道真一氏

●優秀賞（副賞：1万円の商品券）
東京支部　（株）平井・中村政恒氏
東京支部　大洋商事（株）・江村和子氏
名古屋支部　服部鋼商店・服部豊一氏
静岡支部　ノボル鋼鉄（株）・伴野恒夫氏
静岡支部　ノボル鋼鉄（株）・関 良介氏

●デザイン賞（副賞：500円図書券）
東京支部　（株）サンテツ・三浦真理氏
東北支部　ノボル鋼鉄（株）・田中照幸氏

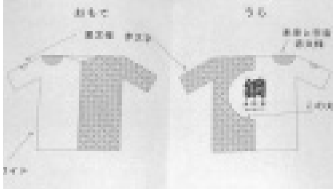
▲副賞を受け取る中道氏

▲「はがねの日」記念Tシャツ（表）

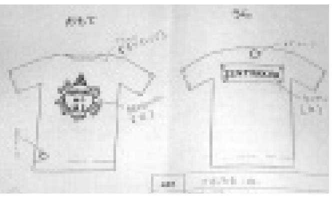
▲「はがねの日」記念Tシャツ（裏）

▲記念Tシャツ完成！

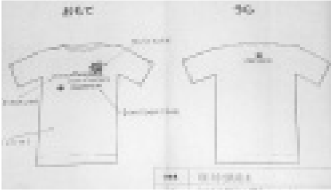
優秀賞



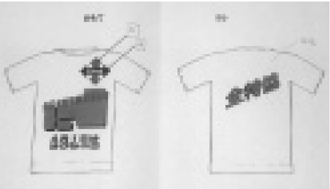
▲（株）平井・中村政恒氏デザイン案



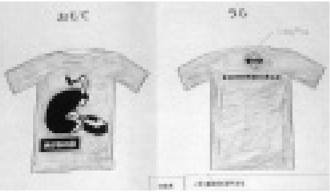
▲大洋商事（株）・江村和子氏デザイン案



▲服部鋼商店・服部豊一氏デザイン案

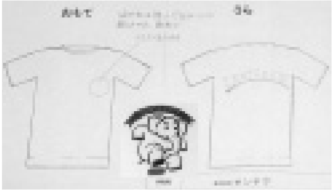


▲ノボル鋼鉄（株）・伴野恒夫氏デザイン案

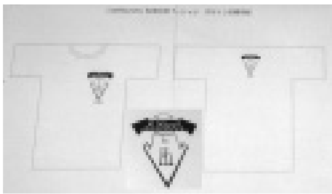


▲ノボル鋼鉄（株）・関　良介氏デザイン案

デザイン賞



▲（株）サンテツ・三浦真理氏デザイン案



▲ノボル鋼鉄（株）・田中照幸氏デザイン案

理事会・委員会報告

第35回運営委員会

日　時：1/27　於：グランドヒル市ヶ谷
出席者：17名
内　容：1. 平成17年度事業計画について
　　　　2. 支部報告
　　　　3. 委員会報告

第4回経済産業省鉄鋼課との連絡会

日　時：1/27　於：グランドヒル市ヶ谷
出席者：20名（経済産業省鉄鋼課・糟谷課長、村田課長補佐、佐野流通係長を含む。）
内　容：①特殊鋼需給動向と内外の諸情勢について
　　　　（糟谷課長の説明）
　　　　②各支部の現況と市況説明

第21回人材育成委員会

日　時：2/21　於：東京・鉄鋼会館
出席者：10名
内　容：1. 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案）について
　　　　2. 特殊鋼販売技士2級合格者へのアンケート実施について
　　　　3. 会員企業への特殊鋼販売技士、加工技士有資格者調査について
　　　　4. に対するフォローアップについて

人材育成委員会
特殊鋼販売加工技士検定試験委員会

日　時：2/21　於:東京・鉄鋼会館
出席者：13名
内　容：1. 特殊鋼販売技士1級試験問題選定
　　　　2. 平成17年度人材育成事業日程報告

調査研究委員会
第5回将来ビジョン等に関する構造用鋼部会

日　時：2/3　於：名古屋・名鉄ニューグランドホテル
出席者：11名
内　容：1. ケーススタデイー結果の討議検討
　　　　2. 各ケースの共通特性の抽出と一般化について
　　　　3. 特殊鋼流通の環境変化の整理
　　　　4. 報告書の方向付け

調査研究委員会
第2回将来ビジョン等に関する工具鋼部会

日　時：2/7　於：大阪・鉄鋼会館
出席者：11名
内　容：1. ケーススタデイー結果の討議検討
　　　　2. 各ケースの共通特性の抽出と一般化について
　　　　3. 特殊鋼流通の環境変化の整理
　　　　4. 報告書の方向付け

第7回広報委員会

期　日：2/4　於：鉄鋼会館
出席者：15名
内　容：1.「はがねの日」制定記念T－シャツの作成について
　　　　2.「はがねの日」イベントについて
　　　　3. 平成17年度事業計画（案）・収支予算（案）について
　　　　4. 広報誌「すていーる」26号の発行について

第11回青年部会・正副部会長会議

日　時：2/14　於：名古屋国際ホテル
出席者：12名
内　容：1. 第7階青年部会運営委員会の開催について
　　　　　（東京支部との共催・講演会）
　　　　2. 平成17年度事業計画〔案〕・収支予算（案）について
　　　　3.「はがねの日」プレイベントについて
　　　　　①特殊鋼ワールドPR冊子の発行
　　　　　②メタルアートプレイバック
　　　　4. 第5回青年部会定時総会開催について
　　　　　（9／2－3名古屋開催予定）

事務局だより

1 JISハンドブック及び定期刊行物購入斡旋のお知らせ

日本規格協会発行の「JISハンドブック」及び定期刊行物の購入斡旋のお知らせを致しましたが、多数のお申し込みをいただき有難うございました。引き続き20%引きでお受けしておりますので、まだお申し込みをいただいていない会員様は、この機会に是非お申し込み下さい。

お問合せは、事務局までお電話下さい。(Tel:03－3669－5803)

2 鉄網製通い箱「おかよちゃん」新価格適用について(経営効率化委員会事業)

素材の高騰と材料不足のなか、鉄網製通い箱につきましては、市況より安くご提供できますので、是非、ご利用をご検討下さい。

鉄網製(大)@7,900円(内寸 960x760x350)
鉄網製(中)@6,300円(内寸 760x465x400)
鉄網製(小)@3,800円(内寸 770x460x250)

3 広報誌「すていーる」に「支部便り」のコーナーを新設(広報委員会事業)

地方支部会員各位から、全特協の他支部がどんな活動をしているか知りたいとの強いご希望がありましたので、平成17年度(第27号)から「支部便り」のコーナーを新設致します。支部活動の中で、他支部の会員各位にもP.R.しておきたい事項がございましたら、事務局までご一報下さい。

(Tel：03－3669－2777、Fax：03－3669－0395)

4 鋼材盗難事件の発生について

去る2月3日(木)の夜半、当協会の会員会社で傭車していたトレーラーが積荷の構造用鋼25トンごと盗難に遭いました。運送会社が駐車場に保管していた午後6時から10時の間にトレーラーごと持ち去られました。その後トレーラーは、4km離れた場所で発見されましたが、積荷は見つかりませんでした。

昨今の素材不足を反映した事件ですが、会員の皆様におかれましても、他山の石として、日頃の防犯の備えを更に強化していただきたいと思います。また、このような物件が市場に出回ることも予想されますので、不審な物件、出所の不確かな物件には手を出さぬようお願い致します。

5 「はがねの日」制定記念事業を各支部で計画

4月1日を「はがねの日」と制定し、平成17年度から支部単位で記念イベント開催を計画することとなりました。東京・大阪・名古屋の3支部では、ボーリング大会の開催を計画しております。開催ご案内が各支部事務局から発送された折には、皆様ふるってご参加下さい。

地方支部でも、現在記念イベントの開催を計画中です。

6 平成17年第9回定時総会の開催

平成17年6月12日(日)～13日(月)名古屋で開催いたします。愛知万博の見学を兼ねて、長島温泉にて総会を開催いたします。総会開催には、出来るだけ多くの会員様にご出席いただきたくよろしくお願い申し上げます。

■ 編集後記 ■

2005年の新年を迎え、全特協各支部では恒例の新年賀詞交換会が開催され、会員各位にはお元気に多数ご出席いただき有難うございました。今年は、特殊鋼業界での材料不足と値上げ問題で、例年になくあわただしい年明けとなりました。

広報委員会では、来る4月を「はがねの日」月間として、記念行事を各支部で検討中です。「はがねの日」制定記念のT-シャツも3月中には完成して、皆様の会社にサンプルをお届けできる予定です。是非、社員の皆様に着ていただきたいと思います。

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／竹内誠二

すてぃ～るVOL.26　平成17年3月10日発行　・発行者　仕幸英夫　・発行責任者　竹内誠二　・制作協力　株式会社トライ